

令和3年度事務事業評価シート

令和3年11月24日作成

事業番号	000728	担当課等	まちづくり課								
事務事業名	交通安全施設整備事業										
予算科目コード	会計	01	款	02	項	01	目	08	事業開始年度	昭和	年度

1 事業概要(令和3年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P102 ゆがわら2021プラン 前期基本計画	3 四季彩と暮らしが調和した安全・安心のまちづくり	Ⅲ 安全・安心の実現	12 交通安全	(1) 交通安全対策の充実	① 交通安全施設や歩道の整備				
関連する個別計画	第9次湯河原町交通安全計画								
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
		○							
目的	第9次湯河原町交通安全計画等を基に、関係機関との連携を図りながら、効果的な交通安全施設整備を行う。								
対象	町民、観光客等								
内容	カーブミラーや道路標示等を整備し、町民や観光客等の交通安全の確保を図る。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(見込)	
コスト	事業費	3,313,500	3,865,400	4,000,000	
	人件費	2,969,600	2,931,200	2,804,800	
	常勤職員				
	会計年度任用職員等				
	人件費合計	2,969,600	2,931,200	2,804,800	
	総事業費	6,283,100	6,796,600	6,804,800	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源	3,191,000	3,744,000	4,000,000	
	一般財源	3,092,100	3,052,600	2,804,800	
	財源合計	6,283,100	6,796,600	6,804,800	
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
区画線整備数	施設整備	箇所	1	3	3
カーブミラー設置数	施設整備	箇所	6	3	3
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
町内の交通人身事故件数	交通人身事故の減少	件	80	67	事故ゼロ

### 3 令和2年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	区画線やカーブミラー等の交通安全施設は、道路利用者の交通の安全を確保するためのものであり、その設備及び維持管理は道路管理者として町が実施すべき事業である。
効率性	投入した費用に見合った効果が得られているか	4	事故の危険性が高い通学路を重点に施設の整備、維持管理を行っており、投入した費用に見合った効果が得られている。
類似性	他事業との類似はないか	4	また、舗装工事等の道路整備事業との連携を図ることで、効率性を図っている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	地域、道路利用者及び学校関係者等からの要望・意見を参考に整備を実施しており、交通安全確保に一定の成果が得られている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	運転者や歩行者など道路利用者を対象とした事業であり、受益の機会は均等である。

令和2年度までの自己評価または改善点	歩行者の危険を回避するため、区画線等の路面標示やガードレールの整備を行い、運転者の危険を回避するため、カーブミラーや注意喚起看板の設置及び維持管理を行った。
--------------------	--

### 4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 区画線やカーブミラー等の交通安全施設の設置及び維持管理は道路管理者として、直接町が実施すべき事業である。また国からの交付金を活用し実施している事業であるため、委託・指定管理の導入は難しいと考える。
令和3年度の見直し及び改善(実績または予定)	小中学校の通学路危険箇所の解消を重点的に行ってきたが、未就学児や高齢者の交通事故防止にもつながるよう施設整備を検討する。
令和4年度以降の方向性	道路利用者の交通の安全を確保していくためには、交通安全施設の設置及び維持管理を継続して実施する必要があるため、現状維持とする。

### 5 一次評価(令和4年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	交通安全の推進と、交通事故の防止を達成するため、継続して事業を実施すること。
------	----------	--

### 6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

### 7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和3年度事務事業評価シート

令和3年11月24日作成

事業番号	000732	担当課等	まちづくり課								
事務事業名	交通安全対策推進事業										
予算科目コード	会計	01	款	02	項	01	目	08	事業開始年度	昭和	年度

1 事業概要(令和3年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P102 ゆがわら2021プラン 前期基本計画	3 四季彩と暮らしが調和した安全・安心のまちづくり	Ⅲ 安全・安心の実現	12 交通安全	(1) 交通安全対策の充実	②③ ②交通安全意識の高揚 ③交通安全運動の推進				
関連する個別計画	第9次湯河原町交通安全計画								
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
		○							
目的	交通安全運動並びに交通安全教育を推進し、町民及び観光客等の交通安全の確保を図る。								
対象	町民、観光客等								
内容	町内の交通安全対策に関し、関係機関等との連携を図りながら、組織的かつ効果的な交通安全対策を樹立計画するとともに、これを推進し交通事故の防止を図る。交通安全関係団体に活動費等を助成する。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(見込)		
コスト	事業費	3,290,140	2,728,749	3,220,000		
	人件費	4,454,400	4,299,000	4,207,200		
	常勤職員					
	会計年度任用職員等					
	人件費合計	4,454,400	4,299,000	4,207,200		
	総事業費	7,744,540	7,027,749	7,427,200		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	7,744,540	7,027,749	7,427,200		
	財源合計	7,744,540	7,027,749	7,427,200		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
街頭指導及び街頭啓発		小田原交通安全協会湯河原支部	回	39	13	40
		湯河原町交通安全母の会	回	27	25	28
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
町内の交通人身事故件数		交通人身事故の減少	件	80	67	事故ゼロ

3 令和2年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 警察、交通安全対策推進協議会、交通安全協会及び交通安全母の会等と連携し、取り組む必要があるため、町が主体で実施すべき事業である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 交通安全対策推進協議会、交通安全協会及び交通安全母の会が実施する交通安全に係る事業に対し、町から委託金や活動謝礼金等により支援を行っているが、その費用に見合った効果が得られている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	3 年間を通じて交通安全に関する街頭指導や啓発活動、交通安全パトロールなどを行い、交通安全の推進と交通安全意識の高揚に努めており、一定の成果が得られている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 各団体が実施する交通安全に係る事業の対象は、町民・観光客等であり、受益の機会は均等である。

令和2年度までの自己評価または改善点	小田原警察署や関係機関の協力を得て、交通安全運動期間中の街頭啓発や高齢者の交通事故を防止するための活動などを行い、交通安全に対する意識向上を図る。
--------------------	---

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	3	警察、交通安全対策推進協議会、交通安全協会及び交通安全母の会等と連携して取り組む必要があるため、委託・指定管理の導入は難しいと考える。
令和3年度の見直し及び改善(実績または予定)	交通事故を抑止するため、小田原警察署や関係機関と連携し、幼児から高齢者まで交通安全についての知識を身につけてもらうため、交通安全教室などの実施について検討する。	
令和4年度以降の方向性	交通安全の推進と交通安全意識の高揚を図り、交通事故の防止を達成するためには、今後も各団体と連携しながら事業を実施していく必要があるため、現状維持とする。	

5 一次評価(令和4年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	交通安全の推進と、交通事故の防止を達成するため、継続して事業を実施すること。
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和3年度事務事業評価シート

令和3年11月24日作成

事業番号	008096	担当課等	まちづくり課							
事務事業名	ドライブレコーダー設置促進事業									
予算科目コード	会計	01	款	02	項	01	目	08	事業開始年度	平成 30 年度

1 事業概要(令和3年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P102 ゆがわら2021プラン 前期基本計画	3 四季彩と暮らしが調和した安全・安心のまちづくり	Ⅲ 安全・安心の実現	12 交通安全	(1) 交通安全対策の充実	② 交通安全意識の高揚				
関連する個別計画	第9次湯河原町交通安全計画								
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
		○							
目的	安心・安全なまちづくりに向けて、ドライブレコーダーの普及を促進し、町民の安全運転意識の向上と交通事故の減少を図る。								
対象	補助金交付要綱の要件を満たす者								
内容	ドライブレコーダーを新たに購入し、設置した者に購入費(取付費を含む)の1/2を補助する。限度額10,000円								

2 実施結果

(単位 円)

区分		令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(見込)		
コスト	事業費	2,352,311	2,045,905	2,553,000		
	人件費	2,969,600	2,866,000	2,804,800		
	常勤職員					
	会計年度任用職員等					
	人件費合計	2,969,600	2,866,000	2,804,800		
	総事業費	5,321,911	4,911,905	5,357,800		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	5,321,911	4,911,905	5,357,800		
	財源合計	5,321,911	4,911,905	5,357,800		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
ドライブレコーダー設置台数			台	233	201	250
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
町内の交通人身事故件数		交通人身事故の減少	件	80	67	事故ゼロ

3 令和2年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	3	本来は自動車を所有する者が設置すべきであるが、運転者の意識の向上により交通事故が減少し、その結果、町民の生命を守ることに繋がるため、町が主体で実施すべき事業である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	3	購入費及び取り付け費の一部を補助することで、ドライブレコーダー取付けの促進につながるため、投入費用に見合った効果があると考えます。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	5年間で700台の目標台数を設定したが、3年目で目標台数に達した(786台)ことから、成果は得られていると考えます。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4	補助金交付要綱の要件を満たせば補助金の交付を受けられることから、受益の機会は均等であると考えます。
令和2年度までの自己評価または改善点	平成30年度からの事業であり、実績が当初の目標台数を大きく上回っていることから、町民の関心が高いと考える。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 町税等の滞納状況の確認作業等、個人情報の取り扱いがあるため、委託・指定管理の導入は難しいと考える。
令和3年度の見直し及び改善(実績または予定)	補助制度を町民みなさんへ広く周知し、補助申請に対する決定業務を迅速に行う。
令和4年度以降の方向性	ドライブレコーダーの設置目標台数を5年間で700台としたが、町民の関心が高く3年目で目標台数に達したが、当初の予定通り、5年間(令和4年度まで)の補助を実施する。

5 一次評価(令和4年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持) ドライブレコーダー設置申請件数の推移に注視し、事業継続の再検討を行うなど、交通安全の推進と、交通事故の防止を達成するため、継続して事業を実施すること。
------	---

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和3年度事務事業評価シート

令和3年11月24日作成

事業番号	003845	担当課等	まちづくり課							
事務事業名	万葉公園・周辺地区まちづくり事業									
予算科目コード	会計	01	款	07	項	04	目	01	事業開始年度	平成 29 年度

1 事業概要(令和3年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P84 ゆがわら2021プラン 前期基本計画	3 四季彩と暮らしが調和した安全・安心のまちづくり	I 計画的な土地利用による自然環境の保全	3 土地利用	(2) 駅前・まち並みの整備	(2) 温泉場地区のまち並み整備				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
		○							
目的	「平成28年度湯河原温泉場の地域資源の再生・活用検討調査」の成果を踏まえ、温泉場の中心的な区域のうち、特に、万葉公園及び湯河原観光会館の敷地を主対象区域として、官民の連携による万葉公園と観光会館の機能・施設の見直しや管理運営の質の向上を図ると共に、温泉情緒あふれる街なみの改善及び良好な住環境の整備を図る。								
対象	補助金交付要綱の要件を満たす者								
内容	令和3年度では、住民等の行う修景整備等に対し補助金を交付することで、湯河原ならではの温泉情緒あふれる街なみの改善及び良好な住環境の整備を図る。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(見込)		
	事業費	49,005,000	0	4,000,000	
コスト 人件費	常勤職員	3,340,800	1,433,000	1,402,400	
	会計年度任用職員等				
	人件費合計	3,340,800	1,433,000	1,402,400	
	総事業費	52,345,800	1,433,000	5,402,400	
財源内訳	国庫支出金	6,600,000		2,000,000	
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	45,745,800	1,433,000	3,402,400	
	財源合計	52,345,800	1,433,000	5,402,400	
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
修景整備助成件数	温泉場情緒あふれる街なみ	件	0	0	1
	景観の実現				
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
修景整備助成件数	温泉場情緒あふれる街なみ	件	0	0	1
	景観の実現				

3 令和2年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	4 万葉公園及び観光会館は町が管理する公共施設であり、民間活力を導入した再整備については町が実施すべき事業である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5 民間の活力を導入した再整備を実施するため、万葉公園及び観光会館の諸条件整理や民間活力を導入するための制度等の調査を実施したものであり、費用に見合った効果が得られていると考えている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5 民間の活力を導入し、温泉場地区にふさわしい魅力的な施設整備による利用者増や、管理運営経費の質の向上及び経費縮減が見込まれる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	2 直接的な受益の機会は温泉場地区住民に限られてしまう。

令和2年度までの自己評価または改善点	事業の中心となる万葉公園等の再整備は令和2年度において完了したが、修景整備について令和元年、2年度と実施されることがなかったため、周知等の方法を検討する必要がある。
--------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 町税等の納税状況の確認作業等の個人情報の取り扱いがあるため、業務委託は難しい。
令和3年度の見直し及び改善(実績または予定)	修景整備について1件の実施予定あり。
令和4年度以降の方向性	令和4年度以降は引き続き住民等の行う修景整備等に対し補助金を交付することにより、温泉情緒あふれる街なみの改善及び良好な住環境の整備を図る。

5 一次評価(令和4年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持) 本地区及び本地区周辺のまちづくりを推進するため、継続して事業を実施すること。 また、補助要望等のアンテナを高くし、予算不足が生じないように留意すること。
------	---

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和3年度事務事業評価シート

令和3年11月24日作成

事業番号	003806	担当課等	まちづくり課							
事務事業名	木造住宅耐震化補助事業									
予算科目コード	会計	01	款	07	項	04	目	01	事業開始年度	平成 21 年度

1 事業概要(令和3年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P99 ゆがわら2021プラン 前期基本計画	3 四季彩と暮らしが調和 した安全・安心のまち づくり	Ⅲ 安全・安心の実現	10 防災・危機管理	(1) 防災対策の推進					
関連する個別計画	湯河原町耐震改修促進計画								
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
		○							
目的	旧耐震基準(昭和56年5月以前に建築された建物)で建築された町内の木造住宅の所有者に対し耐震改修費等の補助を行い、町内の住宅の耐震化を促進する。								
対象	補助金交付要綱の要件を満たす者								
内容	昭和56年5月以前に建築された町内の木造住宅の耐震化を図るため、耐震診断に係る費用、補強設計及び耐震改修工事に係る費用を補助する。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(見込)		
	事業費	49,500	49,500	50,000	
コスト 人件費	常勤職員	139,190	43,467		
	会計年度任用職員等	0			
	人件費合計	139,190	43,467		
	総事業費	188,690	93,467		
財源内訳	国庫支出金	0	25,000		
	県支出金	0	5,000		
	地方債	0			
	その他特定財源	0			
	一般財源	188,690	63,467		
	財源合計	188,690	93,467		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
補助金交付件数	耐震化率の向上につながるため	件	0	0	1
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
補助金交付件数	耐震化率の向上につながるため	件	0	0	1

3 令和2年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	3 本来は住宅所有者が自主的に実施するものだが、町内の住宅耐震化を行うことは住民の生命や財産を守ることにつながるので、町で実施するべき事業である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	3 改修等に係る費用の一部を補助することで、耐震化の促進が直接的に図られることから、投入費用に見合った効果があると考ええる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	2 補助対象となる住宅数に対して、耐震改修工事等を実施する件数が少なく、また目標値にも達していない。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4 補助金交付要綱の要件を満たせば、誰でも補助金の交付を受けられることから、受益の機会は均等であると考ええる。

令和2年度までの自己評価または改善点	本事業の補助制度を活用して耐震改修を実施する件数が少ないため、住民等に対し、補助制度の更なる周知を行い、補助制度の活用及び耐震化の促進を図る。
--------------------	---

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	3	町税等の滞納状況の確認作業等の個人情報の取り扱いがあるため、業務委託は難しい。
令和3年度の見直し及び改善(実績または予定)	補助制度について、町広報誌、地方紙等による広報のほか、イベント等におけるPRを行うなどのほか、新たな周知の機会を検討していく。	
令和4年度以降の方向性	町内の住宅の耐震化の向上を図るため、本事業を継続して実施する。	

5 一次評価(令和4年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	町内の木造住宅の耐震化を促進するため、積極的なよりPRに努め、継続して実施すること。
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--